

1. 鶴ヶ峰駅

昭和 5 年(1930)10 月開業。

昭和 37 年(1962)5 月橋上駅舎完成

平成 28 年(2016)一日の乗降客人員、 57,578 人

〔右の写真は昭和 35 年(1960)頃〕



2. 地神塔 (道しるべ堅牢地神塔)

(右)：八王子、大山道。 (左)：戸塚道、川島上村。

○六臂青面金剛庚申塔

宝暦 9 年(1759)造立の庚申塔と腐食したお社を新築し、中に塔を祀った。



○小金井稲荷

成田山の出世稲荷を勧請。

3. 嶋崎・金子稲荷社とタブの木

天保年間に嶋崎家と金子家にて伏見稲荷大

社の分霊を祀った。タブの木は横浜市の天然

記念物に指定されています。タブノキは霊が

宿る木とされていたので「霊の木(たまの

き)」と呼ばれ、「たまのき」が「たぶのき」に

変化したと云われる。



4. 馬頭観音 天明 7 年(1787)造立

大正から昭和の初め頃、馬頭観音の世話をしていた「さっちゃん」というお婆さんに馬頭観音が乗移って「易」を見るようになった。それがよく当たると評判になり、保土ヶ谷など周辺地域から訪れる人が絶え間なかったと云われていた。



5. 三反田稲荷神社

祭神：倉稲魂命(鷗鷗霊尊、ウガノミタマノミコト)、

創建：享保 5 年(1720)伝

新編武蔵風土記に(文政 11 年(1828)版より、

「除地一畝五歩村の中程にて丘上なり、村の

鎮守とす。鎮座の年代をしらず。社前に木の鳥

居をたつ、例祭は年々九月十二日、村持」と記

されている。現在の鳥居は昭和 57 年(1982)に

再建した両部鳥居。境内にある 3 基の石塔

○道しるべ庚申塔(寛政八年 1796)造立、

○地神供養塔(天保 4 年)造立、

○聖徳太子像(文化 5 年 1808)造立、

聖徳太子が 16 歳の時、父・用明天皇の病氣回

復を祈願した姿で、両手に柄香炉を持ち、親への孝行を表現した孝養像です。

太子は、四天王寺・法隆寺等の建設に関わり、また曲尺を考案したことから、

建設・木工の守護神として信仰された。2 月 22 日の太子の命日には、屋根職

人・大工・左官・土木作業員らが集まって「講」を開き、太子が描かれた掛け

軸を飾り、日頃の仕事に対する感謝の気持ちをこめて会食した。この時、職

人さんの 1 年間の賃金を決めたと云われている。



6. 出羽三山講中碑 大正 5 年建立

出羽三山とは、羽黒山・月山・湯殿山の三山のこと、

西の熊野とならんで、古来より山岳宗教の霊山として信

仰を集めた。人々は天下泰平、五穀豊穰、無病息災を祈

願して参拝した、この講中を三山講といい、江戸後期に

盛んであったと云われている。この三山供養塔は、講中

の人達によって建立された。尚、出羽三山は神仏習合の

霊場であったため、明治初期の神仏分離令によって衰退した。現在、羽黒山

には寺、月山と湯殿山には神社が在る。

○子育て地藏

宝暦 14 年(1764)造立、 地藏立像

地域に愛されている地藏さんです。

7. 小高神明宮 平成 10 年に新築された神明造。

祭神：大日靈貴尊(オホヒルメノミコト)=天照大神の別名

貞享 4 年(1687)、幕府旗本勘定役、小高(オタカ)市

右衛門が辞任して、ここに入植し、小高新田を開

拓した。元禄年間(1690 年代)に社殿を創建し、

小高村の総鎮守とした。

○. 神田公園

神社に所属する田で、その収穫を祭祀・修理・造営などの諸費に充てることを目的とする免税田です。

○. 市沢地区センター (休憩)

8. 市沢の石塔群

その昔は、今の 4 倍位の広さの中央に塚があつて、その上に二十六夜塔が建

っていた。付近一帯の、造成工事の折、地元有志によって整備が行われ、町

内に埋もれていた石仏・石塔をこの地に集め保存した。

① 庚申塔 天保 2 年(1831) 右：ほ土がや 左：かな川道

② 二十六夜塔 明治 5 年(1872)

③ 猿田彦大神 明治 14 年(1881)

④ 馬頭観音 慶応元年(1865)

これより左弘明寺道



9. 一猿庚申塔 (左側)

宝暦 5 年(1755)

おなで石 (右側)

丸い石を撫でると

「中耳炎」が治ると云われている。

○. 市沢小学校

明治 6 年(1873)「第一大学区神奈川県管内第九中学区武蔵国都筑郡第八番小

学市野澤学舎」として、長見寺近くの農家(野口源右衛門さんの家)を借りて学

校とした。明治 11 年(1878)長見寺境内に校舎を建てた。その後、暴風雨や焼

失などで転々としたが大正 2 年(1913)現在の所(大字市野澤神田 781 番地)に、

新しい木造草ぶき平屋校舎を建てた。以後校舎の増築や分校の独立(左近山第

一小学校、左近山第二小学校)をへて、現在に至る。



○. 笠付道しるべ庚申塔

安永元年(1773) (右面)かまくら道、(左面)ぐめうじ道

以前は、環状 2 号線近くの旧道追分にあった。



10. 熊野神社

祭神：天照大神、伊弉諾尊、 創建：文政 10 年(1827)

新編武蔵風土記に、見捨地、九畝、村の中央にて丘上にあり、村内の鎮守な

り、勧請の年代を傳へず、弘法大師肉筆の六字名號を神體になぞらふ、本社

の前に二間に三間の拝殿を設く、その前に鳥居をたつ、皆東に向へり、年々

九月朔日を例祭とさだめ、村童をあつめて角力を

興行す、是を風祭と號す、風災なからんことを祈

る故なり、長見寺持、と記載されている。熊野神

社の興りは、熊野詣の盛行や有力者による荘園の

寄進、熊野先達の活動により全国に熊野信仰がひ

ろまったことにより、熊野三山の祭神を勧請した神社が全国に成立した。熊

野三社「熊野本宮大社・熊野新宮大社・熊野那智大社」を造り、神仏習合の典

型である「熊野権現」とした。「権現」とは仏が「仮に」神の姿をして「現

れる」こと。また、その神のことを云う。本殿脇に、五基の庚申塔と一基の地

神塔が周辺より集められている。



11. 長見寺 真言宗

新編武蔵風土記によると、古義真言宗、除地、陸田

二段三畝、山三段五畝、村の中央にあり、久良岐郡

石川村寶生寺末、壹澤山と稱す、野口氏の人開基せ

しと云傳ふるのみにて、其年曆及び開山の僧 詳(つ

まびらか)ならず、本尊不動の坐像長五寸、三坐相殿

祠(さんぎそうでんし)、客殿に向かって左にあり、稲荷・天神・疱瘡神三坐を祀

れりと記載されている。現在のお堂は昭和 40 年に再建されたものです。

馬頭観音(八臂) 天保 14 年(1843)造立、 当所上下馬持中

地藏坐像(龍座・蓮華葉) 享保 9 年(1724)造立、

12. 市沢の谷戸

谷戸の原風景や里山が残っている所です。初夏にはホ

タルの乱舞が見られ、自然の中で小さな生物や植物が

見られる。「市沢・仏向の谷戸に親しむ会」では、貴重

な自然の宝物を次世代に受け継いでいくことを様々

な活動を積極的に行うことによって啓発している。



13. たちばなの丘公園 (平成 23 年 10 月 5 日開園)

浅野総一郎氏が自身の経営するセメントや石炭企業

に於いて、多量の爆薬を必要としたが、戦争により

輸入が途絶えるという状況になり、大正 8 年(1919)

スウェーデン・カートリット社の爆薬製造の権利を

習得し生産を開始した。平成 7 年(1995)に群馬県渋

川市に移転し、跡地の一部(12.4hc)を横浜市が総合

公園として整備中ですが保土ヶ谷区側が完成し開放

されている。

